

山への避難を訴えた児童がいたことについて

平成23年5月の聞き取り調査で、市「山に逃げようと言った子がいたと聞いたが本当か」児童「はい、いました」というやりとりがあった。聞き取り調査当時にも、調査終了後間もない時期にも**複数の児童が証言**をしている。

市教委が作った聞き取り調査報告書には記載はなく、調査メモは 廃棄した。

亡くなった友達のことを懸命に話した**児童達の証言がなかったことにされたまま**である。

	市教委の説明・コメント	備 考
H23. 6. 4	第2回説明会 『こって海浴いな』という女子、『山さ逃げよう』という男子がいた	児童への聞き取り調査をもとにしたという説明だった。(そういう証言があったということ)
H24. 3. 18	第4回説明会 (そのような事実は)市教委としてはおさえていない。	「山へ逃げようと言った子どもがいたと聞くが、ほんとうか」という質問に対して。
H24. 7. 8	第5回説明会 6月4日に説明しているのだから、市教委は「山への避難を訴えていた子はいた」という認識をもっていた。	その根拠は説明できず。 聞き取り調査での児童の証言にはないと回答。
H24. 7月	取材に対し 『こって海浴いな』という女の子」と書く と、次は『山さ逃げよう』という男の子」と書きたくなるものだ」と回答。	
H24. 8. 26	第6回説明会 山への避難を訴えていた子はいたが、聞き取り調査ではそういう証言をした児童はいないと回答。	5月頃、一人の保護者がそう言っていたので6月4日にそう説明した。 (教頭先生からの情報) ※なぜ7月に答えられなかったのか。
H24. 9月	保護者に対し 「山に逃げようという子どもがいるいないは大して重要なことではない」と話す。	



説明会中の写真：山へ逃げようと言った児童がいたという証言について問われたときの様子。

口の前に指をあてるのは考え事をするときの癖だと弁明。

(動画はこちら 1分11秒あたり) <https://www.youtube.com/watch?v=yPLaH8nrAWg>



毎年3月に行われていたシイタケ栽培

大川小の校舎は1980年代に建設された。2階建ての屋根は斜面を描き、大勢が避難できる屋上はない。津波はその屋根まで達した。職場などで警報を知った親には「裏山があるから大丈夫」と安心した人もいる。なだらかな斜面があり、日ごろから子どもたちは

山に登っていた。

だが、児童の一人は市教育委員会の調査にこう答えている。先生に「山へ登るの」と聞いたら、「登れないんだよ。あぶないから。校庭にいた方が大丈夫だよ」と言われたという。児童全員を山へ避難させる訓練は行われたことはなかった。

5年生だった只野哲也君(12)は、児童の列の前で教諭らが円になって話し合っていたのを見ていた。6年の児童が教諭の一人に言った。「先生、山に逃げた方がいいと思います」

「私にもわからない」と教諭。児童は「先生なのに、なんでわからない」と食ってかかったという。

保護者らの話では、当時、学校前にはスクールバスが待機していたという。だが、避難のために使われることはなかった。

